令和2年度 新入生入学

４月８日（水）、折しも満開となった桜に見守られ、希望に満ちあふれた新入生１９６名が八鹿高校の門をくぐりました。本来であれば新入生は、吹奏楽部の演奏と拍手に包まれながら体育館へと入場し、音楽部の合唱で温かく歓迎されます。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染を防ぐため、最小限に縮小されました。座席の間隔を広くしたほか、マスクを着用し、「国歌・校歌斉唱」は演奏のみとするなど、感染予防対策を万全にして行われました。

校長先生は、新入生に向けて「人生を探究し、未来を見据えた生活を送る人になってほしい」と述べられました。「“なぜ？どうして？”という疑問を突き詰め、自ら学んでたくましく育ってほしい」と激励されました。

新入生代表による宣誓では、本校の校訓である“尋師訪友 克己勉励”にふれて、勉学に励み、仲間と助け合っていくことを強く誓いました。この校訓には、「おのれを強くふるいたたせ、師に教わり友とともに勉学に励もう。そして、成長した姿で再び恩師や友を訪ね、努力した日々を懐かしみ語り合おう。」という意味が込められています。これは言い換えると、恩師や友とともに、努力を惜しまずひたむきに過ごした高校生活は、一生の宝物になるということです。歴史ある八鹿高校の一員であることに誇りを持ち、何事にも意欲あふれる八高生として、躍進されることを期待しています。